

# 防犯

## 生活安全の確保



おの でらかつろう  
**小野寺勝朗**さん  
白石警察署 副署長

震災直後、白石警察署では66人全署員体制で被害状況の早期把握や停電に伴う主要交差点の信号機滅灯に伴う交通対策、各地区に設置された避難所の警戒と被災者ニーズの把握、事件・事故の防止を目的とした警戒などに当たりました。道路が寸断された場所の迅速な被害状況の確認は、「白石警察署バイクパトロール隊」が力を発揮しました。

庁舎は、電気や水道が止まり、電話も不通のため通報を受けることができませんでしたが、安否確認やガソリンスタンドへの給油待ち車両の列に関する苦情、免許証の書き換えや車の車検などに関する問い合わせのため署を訪れる方の対応におわれました。

3月12日からは他署への応援を開

始。仙台南署や亶理署管轄エリアで行方不明者の捜索や岩沼署管轄エリアで遺体安置所の対応を行い、最大で12人がその業務に当たりました。

震災を経験して、あらためて市民の皆さんにお願いしたいことがあります。

1つ目は、「身の安全の確保」です。日ごろから、非常持ち出し袋などを準備しておくとともに、避難場所と安全な避難経路を確認しておくこと。そして、家族で安否確認方法などを話し合っておくと思います。

2つ目は、「交差点などでの安全確認の徹底」です。震災直後は、信号機の倒壊や停電による滅灯により交通が麻痺しました。警察官を配置して交通整理を行いました。すべての場所への対処を署員で行うことはできませんでした。交差点付近などでは安全確認を徹底し、譲り合いの心を持って運転してほしいと思います。

3つ目は、「災害に便乗した犯罪の防止」です。「震災の被災状況を調べているのでお金を振り込んでほしい」「年金を義援金に回してほしい」「災害支援基金への寄付をお願いします」と、これらはすべて災害につけ込んだ詐欺です。あわてずに、家族や警察署に相談してください。

# 電気

## 被災した設備の復旧と供給力の回復



こうえつ  
**菅原 幸悦**さん  
東北電力白石営業所 配電計画課長

東日本大震災により、太平洋側の発電設備から送電設備、変電設備、そして営業所が保守管理している配電設備に至るまで甚大な被害を受けました。大規模停電(約486万戸)が発生し、本営業所では、白石市を含む2市7町(約10万戸)の停電復旧のため、他支店から派遣された社員やグループ企業、他電力会社からの応援を受け、昼夜を問わない懸命な復旧作業を行いました。

大規模地震時は、電柱の倒壊や傾斜のほか、電線の断線などが想定され、感電など公衆災害防止を図る目的から、設備の安全性を徹底して確認することが最重要となります。

本営業所は、停電発生直後から配電設備被害状況調査を行い、1000件の応急工事を含めた改修作業を行

いました。

その被害は、電柱折損・傾斜や電線の断混線、変圧器・開閉器損傷など多岐にわたりましたが、白石市内は、3月16日までに約200、2000戸の停電を解消しました。

その後も細部にわたる配電設備被害状況調査を継続していますが、改修作業が必要な箇所は約8、000件で、現在もその改修工事を行っています。

白石営業所では、震災の経験を活かし、「各自自治体へ迅速かつ正確な情報を伝えるための衛星電話連絡ルートの確立」「大規模応援隊の拠点基地用地を確保するための災害復旧協定締結」「電源車や復旧作業車の燃料を確保するための取り組み」など、災害対応力のさらなる強化に向けたさまざまな取り組みを行っています。

震災により、平成23年夏以降、電力不足となり、この間、市民の皆さんには節電にご協力いただきありがとうございました。

現在、さらなる供給力を確保するため、津波により甚大な被害を受けた発電所の復旧作業に懸命に取り組んでいます。十分な供給力が確保できるまで、引き続き節電にご理解とご協力をお願いします。

# 上下水道・道路

## 社会生活基盤の迅速な復旧



かま 康静  
白石市災害対策本部長

**下水道の被害・復旧**

震災直後は水道が断水し、被害の規模を把握することができませんで

### 上水道の被害・復旧

生活用水である水道は、24時間365日片時も休まずに給水するため、水を配る配水管だけではなく、水を溜める配水池や水を送るポンプ場などさまざまな施設があります。これらの施設の主なものは、上下水道事業所と通信回線で結ばれ、中央監視装置でその状態を監視していますが、長引く停電と通信回線の故障で監視が不能となり、一つ一つ、現地確認を行いました。

白石川の南側に送っている水は、主に南部山浄水場から送られてきた水です。地震でその送水がストップし、同時に市内のあちこちで水道管が破損し漏水が発生しました。その結果、配水池に溜めていた水も底をつき、市内の約9、000戸で断水や、わずかし水が出ないという事態になりました。

南部山浄水場からの送水がいつ復旧するかわからない中、応急給水活動を行いました。水道関係職員だけでは手が回らず、民間事業者やボランティアの皆さん、自衛隊などの協力を得て、最大8台の給水車で24カ所の給水所を回り、16日間給水活動を続けました。幸い、白石川の北側は南蔵王の麓で湧く水を利用してのことや地盤がよく本管の漏水もほとんどなかったため、その水を使って給水活動を行いました。

南部山浄水場から送られてくる水は、3月15日の夜にようやく再開しましたが、その水が配水池に溜まり各家庭の蛇口から出るまでには、さらに数日を要しました。配水管が壊れているため水を送ることができない地区もあり、市内の水道業者の協力を得て修理を急ぎましたが、市内すべての世帯で水が出るようになったのは3月28日でした。

現在、市内の老朽化した配水管を地震に強い管に入れ替える工事を始めています。この工事は、今後も継続して行っていく予定です。

## 地震に強い管に入れ替える工事を行うなど 災害に強いまちづくりを進めていきます

だが、水道が徐々に復旧していくと生活排水が発生し下水道管に水が流れ込み、管の中が閉塞した付近のマンホールで汚水が溢れ出す箇所が市内の至る所で発生しました。その汚水を市内の建設業者の協力を得て応急的に配管して流す作業を実施しました。

調査は下水道管が入っている所を目視し、被害区域を特定。マンホールを一つ一つ開けて確認作業を行いました。その後、被害を受けた箇所を国の補助を受けて復旧するため、管の中にカメラを入れて確認する調査を実施し、国の査定を受けました。

震災により管路は約13km、マンホールは269個、農業集落排水(農村下水道)処理場は3地区(斎川、薬師堂、越河)すべてが被害を受け、復旧するための工事費の総額は9億2、000万円に上っています。

現在は市内の建設業者を中心に下水道の災害復旧工事を進めています。被災が市内広範囲に発生していることもあり、復旧には時間がかかりますが、平成24年度内の完了を目指し作業を進めています。

### 市道の被害・復旧

市道の被害は、241カ所(41・5キロメートル)、被害総額は約18億5、000万円に上りました。被害の特徴は、路面の陥没が至る所で見られたことと、震災から1カ



▲東中学校通学路(鷹巣団地側)